

<平成21年度学部附属共同研究報告>

ことばかけと見ることを意識した造形活動の展開

佐々木達行*・幸 秀樹*・東園栄子**・金丸恭浩***
吉行順一***・横瀬勝彦****・田村将太****

1. はじめに

小学校図画工作科の新学習指導要領では、教科の目標として新たに「感性を働かせながら」という文言が加えられた。これは、子どもの感覚や感じ方、表現の思いなどを一層重視することを明確にするために示されている。子どもの感性を高めていくためには、教師のことばかけや共通事項に示された形や色など対象の特徴をしっかりととらえることが非常に重要になってくると考える。

本学会では昨年度も同じテーマで研究を進めてきたが、研究の成果として、幼・小・中の連携をとおして、子ども達が自分達の造形活動への高まりを感じることができたこと、中学校教諭・大学教授・小学校教諭・幼稚園教諭のそれぞれの視点でのことばかけによって造形活動に深まりが見られたことが挙げられる。

そこで、本年度もさらにその研究を深めていきたいと考え、研究テーマを設定した。また、本年度は造形活動（特に鑑賞）における言語活動の在り方についても研究を深めていきたいと考える。

研究計画としては、鑑賞における言語活動の在り方やことばかけについて理論研究を行うとともに、実際の授業においてどう活用できるのかを確認していきたい。また、小学校1年生と幼稚園年長との合同学習を行い、造形に対する気付きをもたせる手立てやことばかけの在り方等について検証していく。

2. 本年度の実践と成果

昨年度の共同研究では、ピオトープを活用した造形活動を行い、小学校6年生と幼稚園児との合同鑑賞会を行った。小学生と幼稚園児では、「見る」ことの共通性や差異を確認することができたが、年齢の開きがあるため双方向のコミュニケーションという観点からはやや検討の余地を残すこととなった。しかしながら、中学校教諭による助言や活動への参与によって造形言語（色や形、素材感）での対話は十分に成立し、この合同活動の可能性も見いだされた。昨

* 宮崎大学教育文化学部

** 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

*** 宮崎大学教育文化学部附属小学校

**** 宮崎大学教育文化学部附属中学校

年度の成果や課題をふまえ、今年度は小学校1年生と幼稚園児での活動を計画した。

本年度も昨年度と同様に、豊かな造形活動展開の可能性を秘めたピオトープを活用した。昨年度は、児童が活動した後に園児が合流するという流れで展開したが、本実践では、造形活動の段階から児童と園児がともに活動し、その関わりの可能性を検証した。スムーズな交流学习を促すために、小学校教諭の関わりと幼稚園教諭の関わりを明確にし、指導案に反映させた。

教師の関わりの視点、言葉がけの観点を明確にしたことによって、子どもたちの活動はスムーズに行われることができた。児童にとっては、思いの明確化が促され発想・構想の能力の育成が促進されたようであり、園児にとっては、見ることの意識化、色や形という観点の把握が促されたようである。今後の共同研究の積み重ねによってさらなる成果の検証を行っていきたい。

第1学年 図画工作科 合同学習

- 1 題材 あつめて ならべて
- 2 題材の目標 ねらい

A 表現 (1)	【造形への関心・意欲・態度】	ピオトープにある自然の材料に関心を持ち、自分が見つけた材料を楽しんで並べようとしている。
	【発想や構想の能力】	ピオトープにある自然の材料の形や色などをもとに、どのように並べるか思い付くことができる。
	【創造的な技能】	ピオトープの気に入った場所や見つけた材料の面白さを考えながら、並べ方を工夫することができる。
	【鑑賞の能力】	それぞれが並べたものを見合ったり、話をしたりしながら、楽しみながら自分や友達の材料や並べ方の面白さに気付くことができる。

【かかわる力】	小学生の友達と楽しくかかわりながら活動する楽しさを味わう。
【考える力】	いろいろな場所を使って自然の材料を並べ、その美しさや面白さに気付く。
【表現する力】	小学生や友達のよさに気付き、感じたことを言葉で伝える。 材料を並べることでできる作品の面白さを味わう。

3 評価規準

幼稚園生と一緒に材料を集めたり、材料を楽しく並べたりしている。(造形への関心・意欲・態度)
グループの友達と話しながら、材料の形や色をもとにどのように並べるか思い付いている。
(発想や構想の能力)

ピオトープの気に入った場所や材料の面白さを考えて、並べている。(創造的な技能)
話をしながら、自分やグループの材料や並べ方の面白さに気付いている。(鑑賞の能力)

時間	学習活動及び学習内容	教師のかかわり(小学校)	教師のかかわり(幼稚園)
9:20	<p>1 本題材の学習について話し合う。 グループづくり</p> <p>活動場所・時間について</p> <p>材料集め</p> <p>2 集めた材料から何ができるか考える。 題材のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ピオトープにあるしぜんのざいりょうをならべてみよう。 </div>	<p>グループを編成し、簡単な自己紹介をすることで、本時は幼稚園生とかかわりながら造形活動を進めることを意識できるようにする。</p> <p>生活科での学習を想起させることで、本時の学習への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>グループごとに材料を集めるようにすることで、ピオトープにある材料を使って何をしたいのか思い付くことができるようにする。</p> <p>集めた材料をもとに、子どもと対話することで、子どもの思いから並べる活動を引き出し、めあてを立てることができるようにする。</p>	<p>(か) 小学校の友達と楽しくかかわることができるような雰囲気づくりをする。</p> <p>(か) 1年生と5歳児のグループづくりをすることで親しみをもたせる。</p> <p>(か) ピオトープでグループの友達と一緒に活動することを伝える。</p> <p>(考) 材料の形や色、材質や環境の特徴などに注目させ、活動への期待感をもたせる。</p> <p>(か) かかわることに躊躇し、活動に参加できずにいる子どもにはかかわるきっかけをつくる。</p>
9:50	<p>3 材料を積んだり、並べたりする。 予想される造形活動 ・同じ種類の材料並べ ・同じ色の材料並べ ・好きな形の材料並べ</p> <p>4 必要な材料を集め、さらに積んだり、並べたりする。 予想される造形活動 ・直線や円などの形並べ ・自然の材料を使った絵の描画 ・場所を生かした材料並べ</p>	<p>材料の形や色などに気付かせるような言葉かけを行うことで、形や色をもとに新しい並べ方を思い付くことができるようにする。</p> <p>必要に応じて、他のグループが並べている様子を見ることで、材料や並べ方を参考にして自分たちのグループの活動が広げることができるようにする。</p> <p>材料が必要なグループについては、活動の途中で自由に集めるようにすることで、自分たちの思いに合った並べ方ができるようにする。</p> <p>子どもの思いを明確にしたり、まとめたりするなどの言葉かけを行うことで、子どもが自信をもって活動できるようにする。</p>	<p>(考) 子どもとのやりとりを通して、拾ってきた材料をどのようにして遊ぶことができるかを考えさせ、その中で並べるおもしろさに気付かせる。</p> <p>(考) 小学生や友達に自分の思いや考えを伝えたり、協力したりしながら活動に取り組みもうとする姿を認める。</p> <p>(考) 子どもの様子を見ながら、他のグループに注目する機会をつくり、よさに気付くような言葉かけをすることで、さらに工夫を楽しませる。</p> <p>(考) 一人一人の思いやグループの思いを探り、工夫したり気付いたりしていることに共感する。</p>
10:50	<p>5 自分たちが並べたものを見せ合って、それぞれの思いを伝え合う。</p>	<p>本時の学習をふりかえり、幼稚園生とともにグループの並べ方の面白さを発表することで、それぞれのよさを認め合うことができるようにする。</p>	<p>(表) 楽しかったことや気付いたことなど子どもの伝えたい気持ちを受け入れる。</p>
11:20	<p>グループでの伝え合い 全体での鑑賞会</p>	<p>全体で並べたものを見合うことで、本時の活動での学びを実感することができるようにする。</p>	<p>(表) 見ることを意識させながら形や色の共通点や違いに気付くような言葉かけをし、発想を広げる。</p>
準備	自然の材料(葉、枝、石、土、砂、草、木の実、竹など) ビニール袋(大)、ガムテープ(グループ編成用)7色		